



久喜市が清掃センターの 統廃合を打ち出す 杉野おさむ議員

去る9月2日、田中久喜市長は議会に対し、現在、ごみの中間処理を行なっている3つのセンターを一つに統廃合する計画案を伝えました。

合併後の久喜市には、①久喜・宮代清掃センター②菖蒲清掃センター③八甫清掃センター(栗橋、鷺宮分)と3カ所の焼却場があります。それぞれが新設後、10数年から40年近く経過しており、今後の改修

費や将来の建て替え費用を考えると一カ所のほうが効率的だというものです。また、計画では、現在の菖蒲清掃センターを建て替えることと、その周辺に7ヘクタールほどの面積で「本多静六記念市民の森・緑の公園」を整備する内容となっています。

これまで久喜宮代衛生組合では、3つのセンターの統廃合が課題となっていました。現在地では、宮代町住民から、建て替え反対の意思が示されており、新設場所が未



菖蒲清掃センター

定となっていたものです。今回の久喜市長の計画案は、決定ではなく、宮代町や、衛生組合の合意も得られていません。今後、両自治体住民の合意と、自治体間や各議会での協議・検討が必要になってきます。統廃合というのは大きな問題です。安易な推進ではなく、市民の間で十分な議論が欠かせません。

どうしてくれる豊作貧乏―米価が大暴落―

“安倍農政”で赤字倍増

今年の生産者米価が大暴落をしています。暴落は、過剰米が出ているのに、安倍内閣は「価格は市場にまかせろ」政策を取っているため、先安感がでて、投げ売り状態になっただけです。また、環太平洋連携協定(TPP)の日米交渉で「実質合意」、農産物の関税問題では具体的引下げ幅まで合意したかの報道もあったためです。

稲作農家が他産業並の労賃を得て米作りをするには、農水省の調査によると、平均で玄米60キロ1万6000円が必要。しかし、米価の相場となる、農協の「概算金」(年内支払い価格)発表では、60キロ8000円から7000円、生産にかかる費用の半分にも満たない価格が、大勢を占めようとしています。

農家からは、「来年の作付の見通しがたたない」「これではコメを作る農家が、いなくなる」など悲痛な声、大規模農家を含めて雪崩をうって離農を促す。政府が進めて来た市場原理に主食のコメ価格を委ねるやり方では「日本の農業農村を根底から破壊します」、命に係わる問題です。

日本共産党久喜市議団は 市民の願い実現に向け奮闘しています

来年の夏までに



エアコンを！ へいま益美議員

6月議会でもエアコンの早期実施について質問しました。室温調査では、6月19日は最高で38度。最低は6月5日16度。7月7日最低19度。7月17日最高39度を記録しています。

市長に2255筆の早期実施を求める要望書を提出しました。また、「子ども議会」の

中でも「勉強に集中できない。ぜひ、教室にエアコンを」と発言した子ども議員もいました。一日も早く実現を！と要望しました。

市は「市長の選挙公約、市民との約束です。出来るだけ早く設置を考えている」との答弁がありました。

その他、中落掘川・青毛堀川の除草や、子ども達の歯肉炎予防の啓蒙活動に力を入れて欲しい。と質問しました。

菖蒲老人福祉センター 利便性の改善を



渡辺まさよ議員

市民から、センターに自動販売機の設置や売店復活の要望がありました。

また、休館日は1日にして、利用しやすくすべき。周りの

除草は業者を入れ、現在の状態の改善。さらに送迎エリアを拡大して欲しいと9月議会で質問しました。

市からは「自動販売機は設置の方向、休館日は利用者の利便性向上を検討していく。除草は改善する。送迎拡大は難しい」との答弁でした。一歩前進、今後もねばり強く要望していきます。

重症児を抱える家族が



安心して暮らせるように！ 石田としはる議員

岩槻市にある県立小児医療センターがさいたま市へ移転する。県は移転後、現在地は1週間に数日だけしか開かない計画。重症児抱える家族は、「痙攣を起こすなど緊急時にこそ現在地で治療を」と願っている。市民の命を預かる久喜市は「緊急時対応の声を上げるべきでは」との質問に、「県は関係者の意見を聞き十分検討を重ねた結果」と答弁。市は第三者的な姿勢でよいのかが問われている。1週間に数日だけしか開かない体制では、患者家族の安心はない。市長は機会を捉え要望すべきである。

